

全学遡及入力事業について

はじめに

京都大学は、大学の創設以来100年余に亘って貴重な図書館資料を収集・蓄積し、その蔵書数は国立国会図書館、東京大学に次ぐ国内第3位の630万冊です。附属図書館、部局図書館・室には国宝、重要文化財をはじめ貴重な古今東西の古典籍から新刊書まで幅広く所蔵されています。

図書館機構では、これら図書館資料の利用を促進し、資料への最善のアクセスを提供するために、平成16年度から21年度までの中期目標・中期計画として6ヵ年計画を策定し、全学的な取組として図書目録情報の全学遡及入力事業を進めています。

平成7年から、文部省（当時）の経費や科学研究費補助金、全学経費など諸々の経費を得て進めてきましたが、平成18年度からは平成21年度まで継続予算として基盤強化経費が措置されたことにより、遡及入力事業を計画的に進めることができることとなりました。

各部局の協力を得て、また状況に応じた計画の見直しを行いつつ実施していますが、第2期中期目標・中期計画を視野に入れた新たな計画の検討が必要な時期になっています。

この機会に本学におけるこれまでの遡及入力の経緯、6ヵ年計画の進捗状況や平成21年度以降の遡及入力計画について報告します。

1. 遡及入力とは

今は、学習や研究に必要な図書や雑誌があるかどうか、またどの大学、部局に所蔵しているか、利用できる状態かどうかは蔵書

検索システムを使えば、国内外どこからでも簡単に調べることができます。

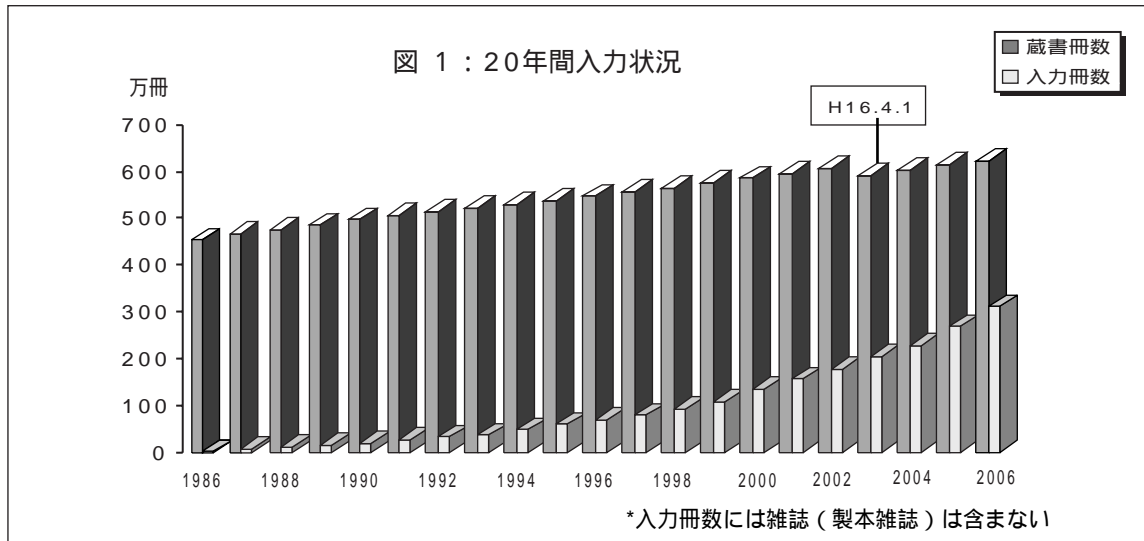
しかし、このようなシステムができたのは昭和60年です。これ以前に所蔵していた図書館資料の検索については、カード目録があるだけです。利用者は、附属図書館に出向いて、総合カード目録を検索して、どこにあるか調べる必要があり、かなりの不便を強いられることになります。

これらの、カード目録にのみ記載された図書館資料の目録データをシステムに入力するのが遡及入力です。

2. 目録データ入力の経緯

本学で目録のデータ入力が始まったのは昭和60年1月です。附属図書館に設置した利用者用端末を使ったオンライン目録検索サービス（OPAC）の運用を開始したのは、昭和63年9月で、サービス開始時のデータ件数は4万4千冊でした。研究室のコンピュータからOPACが利用できるようになったのは平成2年で、データ件数は約20万冊でした。

平成7年度には文部省（当時）から遡及入力経費の配分を受けて、昭和61年度以降に受入れた全学の洋書約4万4千冊、平成9年から11年度にかけては科学研究費補助金により、特殊コレクション約12万冊の遡及入力を行い、平成11年10月に入力冊数が100万冊を超えるに至りました。平成12年度以降も、附属図書館では毎年度、全学経費等を要求し、各部局独自の入力も含め、4年間で57万冊の遡及入力を行っています。このようにあらゆる機会



を捉えて遡及入力を進めてきましたが、膨大な蔵書に対し、継続的な経費の確保ができません。いままでした。

平成16年4月1日国立大学法人移行時点の図書の入力冊数は204万冊で、約290万冊の図書が未入力という状況でした。(図1)

3. 目録データ入力の現状

平成19年4月現在、約306万冊の図書と約34万冊の雑誌の目録データが入力できており、全図書館資料の約55%です。全ての蔵書をいつでもどこからでもKULINE(検索システムの愛称)で検索できるようにするには、未入力資料の遡及入力事業の推進が必要です。

4. 遡及入力による効果

1) 利用者へのサービス向上と利用促進

蔵書の検索が簡便にできれば、当然利用者の手間が大幅に省けます。また、KULINEにより効率的で、幅広い検索が可能になり、カード目録では探せなかった図書館資料、学内にないとあきらめていた図書にも行き着けるかも知れません。蔵書の利用促進にも繋がります。

2) 閲覧業務の効率化

貸出・返却、相互利用の手続きがシステムを通じてできるようになったのも目録入力によるところが大きく、事務の簡素化や、利用状況の把握や統計の出力を容易にするなど図書館サービス業務の効率化が促進できます。

3) 図書管理業務の効率化への効果

平成16年度に国立大学は法人化され、教育研究用の図書は資産として厳正な管理が求められています。600万冊を上回る全蔵書を対象に、一定の年限内に図書1冊毎の所在確認が義務付けられています。目録データが入力されていると図書の確認作業が大変効率よく行えますので、遡及入力は急務と認識され、各部局においても全学的経費のみならず、部局経費による遡及入力も進められています。

また、書庫等の収蔵スペースの狭隘化対策として重複資料の整理、利用効率を考慮した資料の適正配置など図書管理業務全体の効率化、合理化が推進できます。

5. 全学遡及入力計画

1) 第 期計画(平成16~21年度)

図書館機構では、平成16年度から21年度までの6カ年を第 期として遡及入力事業計画を遂行中です。平成16年4月の未入力の図

書約290万冊のうち、第期の計画冊数は約210万冊としています。全国総合目録データベースに書誌があり、比較的簡単に入力が行える図書を対象としています。この計画は全学経費による入力と部局独自に行う入力を合わせて年間目標冊数を設定しています。

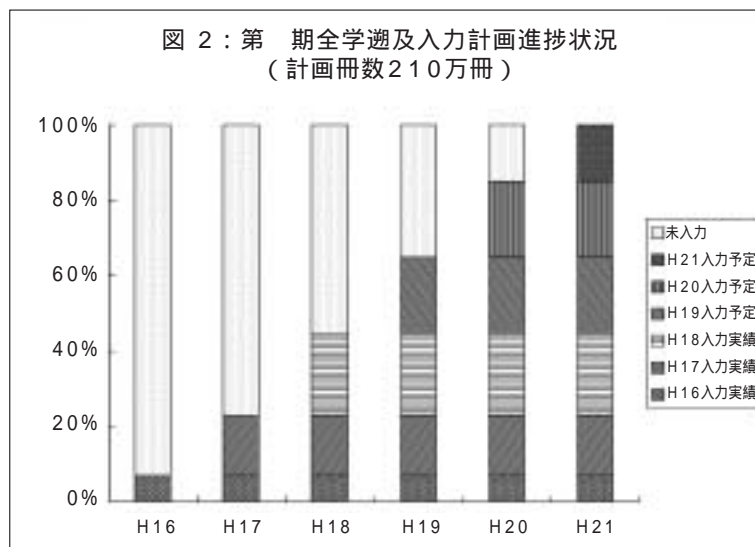
具体的には、予算措置された全学経費については、非常勤職員を遡及入力要員として附属図書館で雇用し、研修を実施した後、計画に参加している部局図書館・室に派遣し現地で入力作業を行っています。

また、それぞれの部局努力として、部局担当者による入力や、部局経費で雇用した要員による入力も併せて実施し、年度計画が達成されています。全学計画と言うゆえんです。

2) 第I期計画の進捗状況

平成16年度から18年度までの3年間で全学経費と部局努力を併せて約93万8千冊の入力を行いました。(表1)(図2)

なお、平成16、17年度は、準備や全学経費



の措置の遅れなどにより遅延が生じ、平成17年度の全学分の入力実績は10万冊余に終わっています。平成17年度以降の計画の見直しを余儀なくされましたが、平成18年度に基盤強化経費が創設され、学術情報基盤整備の一環として、遡及入力事業への予算措置が決まり、平成21年度までの財源の確保ができました。おかげで平成19年度は年度当初の4月から事業を開始できました。平成19年度から21年度までの残り3年間で約113万冊の入力を予定しています。(図3)

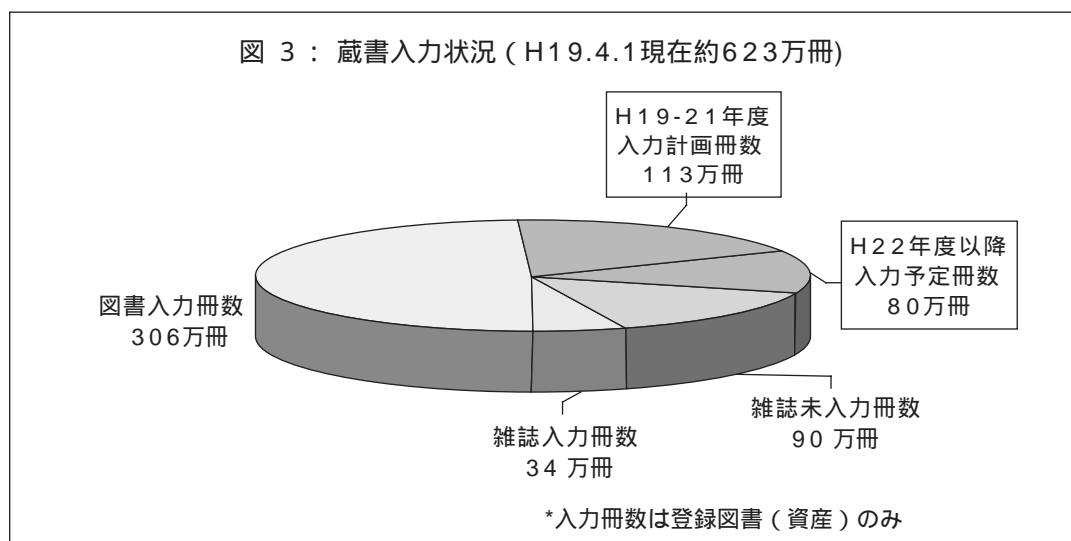


表 1 : 全学遡及事業入力実績 (H16年度～H18年度)

参加部局名	全学経費による遡及入力冊数			部局経費・担当者による入力			合計
	H16	H17	H18	H16	H17	H18	
附属図書館			13,409	8,000	2,605	2,928	26,942
附属図書館宇治分館		2,381	10,300			2,585	15,266
文学研究科・文学部	3,983	32,320	42,000	20,000	88,027	41,276	227,606
教育学研究科・教育学部		5,965	17,634	2,000	10,813	2,250	38,662
法学研究科・法学部	4,262	8,506	14,553	6,000	7,286	21,125	61,732
経済学研究科・経済学部	3,168	9,851	21,894	10,000	53,000	39,936	137,849
理学研究科・理学部	2,182	2,487	3,972	5,000	2,934	4,223	20,798
医学研究科・医学部	2,054	6,706	5,494	4,000	9,940	9,460	37,654
薬学研究科・薬学部					1,569	12,997	14,566
工学研究科・工学部	2,004	2,320	6,426	9,000	4,609	30,471	54,830
農学研究科・農学部	3,290	3,923		10,000	7,568	35,038	59,819
人間・環境学研究科・総合人間学部		14,911	28,391	5,000	14,997	25,874	89,173
エネルギー科学研究科		693			1,050	1,454	3,197
情報学研究科		2,810		2,800	600	2,913	9,123
人文科学研究所	2,568	8,248	22,781	10,000	13,063	18,180	74,840
経済研究所	6,805	6,231		8,000		1,351	22,387
基礎物理学研究所						2,221	2,221
数理解析研究所	2,003			3,000	980	14,663	20,646
原子炉実験所				2,000	3,308	835	6,143
東南アジア研究所				4,000		883	4,883
高等教育研究開発推進センター						361	361
フィールド科学教育研究センター				500	1,088	772	2,360
生態学研究センター				5,000	1,979	12	6,991
その他の部局						38	38
合計	32,319	107,352	186,854	114,300	225,416	271,846	938,087

3) 外部資金の確保：国立情報学研究所(NII) 遡及入力事業
平成16年度からNIIでは多言語資料、レアコレクションの遡及入力事業を進めており、

本学でも毎年応募し、3年間で7部局、8種類の言語、4点のレアコレクションが採択され、約3万9千冊を入力しています。(表2)

表2：NII事業による入力実績
(H16年度～H18年度)

参加部局名	H16	H17	H18
附属図書館	1,468		660
文学研究科・文学部	12,206	4,065	774
法学研究科・法学部		982	
経済学研究科・経済学部		804	
人間・環境学研究科・総合人間学部			9,037
アジア・アフリカ地域研究研究科	2,063	545	650
人文科学研究科		1,845	
東南アジア研究所		2,472	944
合計	15,737	10,713	12,065

また、NIIの支援の下、平成12年度から15年度まで文部省の図書館機能高度化経費「総合目録構築経費」の配分を受けて中国語資料の遡及入力事業に参加し、全学の中国語図書、約12万3千冊の入力を行っています。本学の多様な学術資料の遡及入力は学内のみならず、全国的な共同利用に貢献しています。

4) 第 期遡及入力計画

平成22年度からの第2期中期目標・中期計画においては、第 期遡及入力計画として、全国総合目録データベースに書誌がなく、新たに書誌作成が必要な残る図書約80万冊を対

象とした遡及入力を開始する予定です。

これらの資料には京都大学の蔵書の特色とも言える貴重な和古書、漢籍が含まれています。平成19年度から20年度にかけて調査を行い、21年度には全学計画を策定する予定です。第 期計画の策定に先行して、附属図書館では、平成20年度から地下2階旧分類和書庫に配架されている和古書、漢籍の入力を開始する計画です。これらの資料は、近現代刊行資料と大きく異なるため、書誌作成には専門的知識をもつ要員の確保や知識を習得するための研修が必要となります。なお、最近になって全国の大学、機関でも古典籍のデータベースが作成され、公開が始まっています。これらのデータベース作成機関と連携をはかりつつ、入力作業をできるだけ定型化し、ガイドライン等を整備して作業効率を上げ、入力期間の短縮ができるよう方策を検討したいと考えています。

おわりに

第 期入力計画も後半にさしかかり、図書館、図書室以外の研究室所蔵の入力も始まっています。入力作業の間、利用者の皆様には何かとご不便をおかけしますが、一層のご理解、ご協力をお願いいたします。

(附属図書館情報管理課)